

# ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 627

2024. 7



03 東京問題研究会からお知らせ	石原重治
04 「浴恩園」学習会案内	丸谷博男
05 アカシアの家ファンハウス見学会案内	澤田大樹
06 地球温暖化について考える 第45回	渡辺政利
08 能登半島地震 第2次視察報告	山下千佳
09 会員通信「近況」	佐藤未来
10 三陸鉄道ぶらり一人旅-3	柳澤泰博
12 鋸屋根に魅せられて	吉田敬子
14 アジアンニュース No.18	T N

## 今月の表紙 提供：石原重治

中野サンプラザは中野駅北口のシンボルでしたが、中野区役所とともに、今夏から解体され、跡地には、地上 61 階・高さ 262mの住宅・事務所及び商業施設からなる超高層ビルとともに 7000 名収容のアリーナとホテルなどの複合施設が建設されます。

写真は、区役所新庁舎(5月7日オープン)の 11 階から、旧庁舎とサンプラザ側を見た様子です。

## Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

### 東京支部

- ◎07/09 火 18:30 常任幹事会 @新建事務
- ◎07/12 金 18:30 地下に眠る江戸時代の名園「浴恩園」の再生を計る運動の報告 報告者：丸谷博男 @ZOOM
- ◎07/19 金 9:30～認知症グループホーム「アカシアの家ファンハウス」見学会 (企画部 澤田) @三郷市

### 全国

- ◎07/01 月 19:00 「縮退」社会での建築とまちづくり懇談会 政策委員会+編集委員会 @ZOOM
- ◎07/06 土 19:00 新建学校 2024in 福岡(講師：小林良雄) @アクロス福岡セミナー室+ZOOM
- ◎08/30 金-09/01 日 建まちセミナー @那須まちづくり広場 (栃木)
- ◎09/14 土 全国幹事会 @ZOOM
- ◎11/30 土-12/2 月 研究集会 @奈良

### 会員及び交流団体 詳細は ( ) に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆07/25 木 19:00 春夏秋冬のある暮らし「気温に出でこない熱エネルギー 放射熱」 @市ヶ谷 BN プラザ+ZOOM (金田)
- ◆07/27 土 10:00 設計協同フォーラム「快適マンションライフ展」 @板橋区立グリーンホール (千代崎)
- ◆08/03 土 14:00 マンションの長寿命化に向けた管理組合の取り組み方 @主婦会館プラザエフ (安達)



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！ [foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp](mailto:foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp)

# 東京問題研究会から課題と学習会のお知らせ

- 1) 神宮外苑再開発は、三井不動産、伊藤忠、独立行政法人日本スポーツ振興センター、明治神宮の4者による、神宮球場と秩父宮ラグビー場の建て替えに加え、本来建てられない高さの商業施設や超高層ビル建設を可能にしてしまう計画です。現場では、神宮第二球場の解体まで進んでいますが、都知事選挙への配慮なのか、樹木伐採は一時的に保留となっています。これからも、建築・まちづくりに関わる専門家として発言・発信を継続していきます。
- 2) さまざまな地域で起きている開発業者や行政がすすめている都市再開発に対して、「再開発ではなく、まち壊し」と異議を申し立てる住民運動、市民の声、会員の関わり方などの経験をふまえて、これまでの都市再開発の問題を検証し、これからの「住まい・まちづくり」を中心にした都市再生のあり方を提案する。という課題です、ご意見を寄せてください。
  - ・ 7～8月 これまで関わって経験したこと・これからどうしたいかを発言発信してもらう
  - ・ 9～10月 意見を整理し、勉強会もしくは意見のまとめ（討議）を行う。提案はそのあとで
  - ・ 東京都（市、区）の都市計画・住宅マスタープラン及び基本構想など上位計画、国土交通省などの考え方も把握しておく
- 3) まちづくり見学会の一環として、旧築地市場跡地の地下に眠る江戸時代の名園「浴恩園」の再生を求めるための拡大学習会を開催します。こちらも再開発ディベロパーは、三井不動産グループに決まりました。
  - ・ 日時 : 7月12日（金）18:30～20:30
  - ・ 会場等 : オンライン（ZOOM）＋実会場で実施 会費無料
  - ・ 報告者 : 丸谷博男氏 ゲスト長屋しず子氏
  - ・ 申込先 : h.maruya@me.com 080-6536-9240

東京都指定の旧跡「浴恩園跡」（大正15年に史蹟指定、昭和30年に都条例改正により旧跡指定）  
所在地：中央区築地五丁目2番 旧東京都中央卸売市場築地市場敷地

（出典）中央区広報紙コラム「区内の文化財」より（令和6年1月21日号）



「江戸浴恩園全圖」国立国会図書館所蔵

新建築家集団東京問題研究会の

# 拡大学習会を開催します。

2024年7月12日18:30~20:30金曜日 会費無料

Online + 実会場での開催です。

会場は、梅ヶ丘アートセンター 世田谷区代田3-48-5 電話03-3419-5247

申込先・丸谷博男 [h.maruya@a-and-a.net](mailto:h.maruya@a-and-a.net)へお願いします。



## 緊急提案！

### 旧築地市場跡地は「浴恩園」を再生することから始めましょう！

**要望1** 東京都築地市場跡地に眠る「浴恩園」の遺構の本調査を実施する。

**要望2** 遺構「浴恩園」の保存・再生を検討する審議会を都民と専門家が参加する委員構成で結成し審議し、その経過を広く公表する。

**要望3** 上記に付け加え、現状6.1haの浴恩園の再生と活用をベースに於いた都民のための築地市場跡地再開発計画を検討する審議会を、都民と専門家が参加する委員構成で結成し審議し、その経過を広く公表する。

**要望4** 都民にとって貴重な空間の改変を伴う築地市場跡地再開発に関しては、環境影響評価を実施し、その経過を広く公表する。

## 築地市場跡地再開発「浴恩園」を再生させる会

申込先・丸谷博男 [h.maruya@me.com](mailto:h.maruya@me.com) ☎080-6536-9240  
長屋しずこ [mizubelife@gmail.com](mailto:mizubelife@gmail.com)



当日の連絡先  
080-1670-1317 澤田



# アカシアの家 ファンハウス見学会

2024.7.19(金)

三郷市にある認知症グループホーム「アカシアの家ファンハウス」（高齢者フループホーム1ユニット+若年性認知症グループホーム1ユニット）

設計、監理を担当した、とも企画設計・村上さんの案内で見学会を実施します。ファンハウス施設長・寺田さんから生活の様子をうかがいます。

**集合** JR 武蔵野線「新三郷」駅 **9:30**  
**見学会** **10:00～12:00**  
**終了後ランチ交流会** **12:00～13:00**



「アカシアの会 ファンハウス」では、18人の方が生活しています。三郷市で長年、地域医療と、認知症の人たちの生活を支えてきた医療法人アカシア会のグループホームです。設計の段階では、若年性認知症の当事者やご家族から意見を聞く懇談会も開かれました。認知症であっても、その人らしく、地域のなかで暮らしていく。その理念と実践に共感し、また学びながら、設計監理に関わりました。

引き渡し時にただの空き地だった畑にはたくさんの作物が実り、豊かな生活の様子が伝わってきます。自転車に乗ってどこまでも出かけていく入居者さんの話など、施設長の寺田さんからは、職員さんたちの日々の努力と、はらはらドキドキの毎日を話していただけだと思います。（村上）

**参加費**  
**500円**

**参加希望者は、7/12(金)までに下記澤田までメールください。**

主催：新建東京支部企画部 担当：澤田 zo-sawada@mist.dti.ne.jp

## 第 45 回 「地球温暖化について考える」

渡辺政利

先回（第 44 回）、2023 年の地球上の平均気温が産業革命前に比べて 1.5°C に極めて近く高くなった報告について紹介しました。世界気象機関（WMO）によれば 1.45°C、コペルニクス気象変動サービス（EU の気象情報機関）によれば 1.48°C です。いずれにしろ「パリ協定」で気温上昇を 1.5°C 未満に抑制する国際的目標にきわどく接近してきていることが分かります。

また 4 月、イタリア・トリノで開催された G7 気候・エネルギー・環境相会議で「CO<sub>2</sub>削減対策がなされていない」石炭火力発電所を 2035 年までに段階的に廃止することが日本を含む共同声明として採択されたにも関わらず、「CO<sub>2</sub>削減対策がなされていない」を逆手に取った日本政府はアンモニアの混焼などにより「CO<sub>2</sub>削減対策がなされている」と言いつくろって石炭火力の稼働継続を合理化しようとしていることにも触れました。

日本政府は「エネルギー基本計画」を 3 年ごとに見直しを行ってきましたが、今年は見直し論議を 5 月 16 日から始めました。2003 年に第 1 次基本計画が造られて以来、3 年ごとに見直しがされてきて今年が第 7 次ということになるようです。

この基本計画の見直しは「パリ協定」に基づいて、2035 年に向けた温室効果ガス削減目標を来年 2 月までに国連に提出することや、2040 年に向けた政府の脱炭素戦略の年内作製など、大きな計画の基礎となる考え方を形作るものとなるようです。

### 「どうなる！？ エネルギー政策」

この「エネルギー基本計画」の改定に当たり、2050 年に向けて温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す政府目標や電力安定供給方針のゆくえについて、東京新聞は 6 月 17 日「どうなる！？ エネルギー政策」と題して脱炭素と政府の原発推進方針に絞って記事にしています。既に目を通した人は多いのかも知れませんがこの内容を要約して紹介したいと思います。

### 脱炭素について

現行の第 6 次計画は 2021 年 10 月に閣議検定され、2030 年度における電源構成の目標は火力 41%、再生可能エネルギー 36~38%、原発 20~22% となっているが、最新の 2022 年度実績は再エネ 21.7%、原発 5.5% で、総発電量の 72.8% は化石燃料由来の火力が占めており、目標との乖離は大きい。

日本のエネルギー自給率は 2022 年度で 12.6%。2022 年のロシアによるウクライナ侵攻後、液化天然ガス（LNG）など火力発電燃料が高騰し、2023 年は多くの大手電力が電気料金を値上げ。燃料を輸入に頼る日本の弱さが浮き彫りに。日本は 2023 年自動車の輸出で 29 兆円稼いだのに原油やガスの輸入で 26 兆円支払い。稼ぎの大半は化石燃料購入に費やされた。

G7 は 4 月、CO<sub>2</sub>削減対策のなされていない石炭火力を 35 年までに廃止することに合意したが、日本は燃料にアンモニアを混ぜて燃やす方法が「CO<sub>2</sub>削減対策のなされていない石炭火力ではない」と言う理屈をつけて、石炭火力を当面使い続ける方針。

### 原発推進について

福島第 I 原発の深刻な事故を教訓に「可能な限り依存度を低減する」としてきた従来の方針について、岸田政権は原発を最大限活用する方針に閣議決定。大手電力でつくる「電気事業連合会（電事連）」は「エネルギー基本計画」の現行表現を見直し、第 7 次計画では原発の再稼働に加え新增設や建て替えの位置付けの明確化を要求。3.11 事故後の原発再稼働は関西や九州を中心に 12 基。電事連などは「脱炭素を進めるためには原発は欠かせない。投資を呼び込む環境整備が必要」などと強調。こうした原発推進圧力に新しいエネルギー基本計画を通じて岸田政権がお墨付きを与える可能性がある。

人口減少や、省エネなど社会的努力で減少に転じている電力需要が、消費電力の大きい人工知能（AI）の増設によって大幅な増加に転じるなど不透明感を

増してきているとして、政府による世論操作が始まっているととれなくもないニュアンスで触れています。

(この消費電力大幅増加キャンペーンは原子力発電増強の合理化のための偽キャンペーンであるとして疑問視する新聞記事も別に発表されています。・渡辺)

6月17日の東京新聞記事「どうなる!? エネルギー政策」は最後に、再エネの拡大をどう行うかの論点として、太陽光発電がパネルの設置場所でトラブルが目立つことを揚げながら、政府は洋上風力発電や様々な形状に適應できて低コストである日本発の「ペロブスカイト太陽電池」などの導入拡大を推進していることも書いています。

そして、「原子力資料情報室の松久保肇さんは『世界的には蓄電池と太陽光のセットで新設した方が原発の新設より安いと言う試算もある。再エネ優先の議論を望む』と話した。」と記事を終了しています。

### 「大手電力会社の受け入れ抑制」

前段で原発推進の業界圧力や政府方針について書きましたが、原発推進については発電現場で既に具体的に推進されてきていることについて、しんぶん赤旗6月13日号に京都大学教授・諸富徹氏へのヒアリング記事「大手電力会社の受け入れ抑制」が載せられています。これについても要約を紹介しておきたいと思います。

この記事では最初に「出力抑制」について書いていますが、「出力抑制」とは大手発電・送電事業者が、再エネ発電事業者からの送電を一時停止して電力受け入れ抑制を行っていることとしています。

2022~23年にかけて関西、中国、四国の3エリアで再エネ発電事業者からの出力制御が激増した。その背景には、原発の再稼働が急増したことがある。2023年は原発が前年比194%とほぼ倍増。特に関西では再稼働原発が2基から5基に増えた。この時期太陽光発電の伸びは鈍化、風力発電も本格普及にはほど遠く2022~23年は再エネが停滞していたという事情も背景にはあった。原発再稼働によりエリア間

を結ぶ送電線など連系線では融通し合う電力量がわずかに4%になり、96%の減となった。関西電力の連系線データでは、2022年から23年にかけて他エリアからの受入量が激減。原発で自分たちのエリア需要は充分満たせるので、再エネや他エリアからの受け入れが必要なかった。中国・四国の両エリアでは関西電力が引き受けてくれないので地元の太陽光発電事業者は抑制せざるを得なかった。政府の掲げる再エネの主力電源化とは全く合わない状況となった。

給電超過になった場合現行の給電ルールは、火力発電の出力抑制、揚水発電の活用などを実施した上で、太陽光・風力など再エネ出力の抑制、最後に原発出力の抑制となっている。ドイツで原発を使っていた時代、再エネが入ってくると原発出力を7~8割抑制するなど原発も再エネ優先としていた。再エネは燃料費が掛からないので製造コストは事実上ゼロ。日本の現行ルールは原発など固定電源を守るためのルールとなっている。東日本でも原発再稼働が見込まれる25年以降、再エネ出力抑制は目も当てられない状況になるかも知れない。

電力需要が突然上向きになるという議論が出ているが、電力需要は2010年をピークに下がり続けており、人口減、東日本大震災以後省エネが進み、建物の建て替えや機材の買い換えの度に消費電力は減っている。

最近では再エネの言葉が消えて「脱炭素」とし、再エネと原発をまぜこぜにして原発を増やそうとしている。

「再エネで世界の動向がどう変わっていくのか。太陽光や風力の変動を克服して、電力システムを管理していくのが21世紀の電力システムのあるべき姿と言われている」「再エネ優先で全てを考える。グローバルに展開し世界に向き合う企業も再エネと証明された電気をほしがっている。原発の電気はいらないと。そこが政府の議論はひっくり返っている。」

そして最後に「再エネ優先にするには政権交代が起きる必要がある」と付け加えています。

(つづく)

## 能登半島地震復興支援本部 第2次視察報告

山下千佳

6月4日(火)～5日(水) 新建能登半島地震支援本部の第2次視察に行きました。

杉山真(石川)、乾康代(茨城)、西條芳郎(宮城)、新井隆夫(群馬)、久守一敏(京都)、杉山昇・千代崎一夫・丸谷博男・丸山豊・山下千佳(東京)、国土研から紺谷吉弘さんが参加しました。

4日の夕食では金沢大学の丸谷耕太さん(丸谷さんの長男)とも交流ができました。

今回のテーマは「被災者の方を支援している方に会いたい」の思いでコースを考えました。

4日、石川県羽咋市にある全国災対連・石川災対連 被災者支援共同センターです。週末はたくさんのボランティアの方が集まり、支援物資を配ったり、住宅の片付けなどに行ったりしています。金沢から輪島市や珠洲市に行くのは車で2時間30分、3時間とかかるので、このセンターの他に6月から穴水センターもできました。まだ、排水ができない地域もあります。多くの支援が必要と思いましたが、何よりも国から補助金を出すこと、再開発でなくて被災地の復興優先の社会の仕組み、政治が重要!!です。進まない現実をみて、もっと声をあげることが国会へのお土産です。

5日、能登半島地震で大きな被害にあった石川県珠洲市、4/5NHK「いいいじゅ～」で紹介された、海を臨む築35年の銭湯『海浜あみだ湯』の新谷健太さんにお会いすることができました。新谷さんは、7年前に北海道から移住してまもなくゲストハウスや飲食店を営み、銭湯を受け継ぎ、移住仲間の方と地域の方々とまちを活性化する活動をされ、「しんけんさん」と呼ばれて親しまれています。地域の取り組みが軌道にのった矢先に地震が起きました。ご自宅は全壊、銭湯は津波の被害にはあいましたが、なんとか再開することができ、再開当初は1日に600人、現在も400人が訪れる被災された方の憩いの場を若い仲間のみなさんと支えています。銭湯は定休日でしたが、水道橋博士さんが支援でいらして、ちょうど周辺を案内に出かけられる時に、偶然お会いすることができました。

その後、珠洲市北部の高屋地区の「円龍寺」に行きました。1975年に原発建設計画が持ち上がり、住民の粘り強い反対運動で計画が2003年に凍結しています。その運動の中心を担ったのが「円龍寺」の20代目住職の塚本真如さんです。お会いすることはできませんでしたが、大きな崩れ落ちた本堂と庫裏を見てきました。高屋地区は完全に孤立し、住民が避難できたのは発災から10日後のことで、加賀市の温泉ホテルに集団で移られたとのことでした。現在、仮設住宅の建設が始まっています。

もし、ここに原発があったら、海底が隆起して岩が露出した海岸を見て、想像もできない恐ろしさを感じました。



羽咋市の支援共同センター



珠洲市の「海浜あみだ湯」中央が水道橋博士、右端が新谷さん





何かしら「農」に関わりたくて、その思いがモヤッと頭の片隅にあります。月に一日(だけ)農業やっている人を手伝う、ことができるといいなあとは今も思っています。迷惑なだけかな、できれば考えを持っている農家さんがいい、など思っているだけで行動できていませんが・・・

5月に、ちょっとした田植え体験に参加し、途中から田植えをやめてタニシ拾いに夢中になる次女を横目に、私の方が泥んこになって満喫しました。

7月には、昨年から企んでいた紅花摘みに行きます。自分からやりたいと言うことがない次女が、DVDを見返した後「紅花摘みやりたい」となり。検索したら、場所は山形、季節は初夏ということがわかり、一年あたためた念願の旅です。山形行きに、ちなんで春にベランダに撒いた紅花の種は、先週花が咲きました。うれしい!

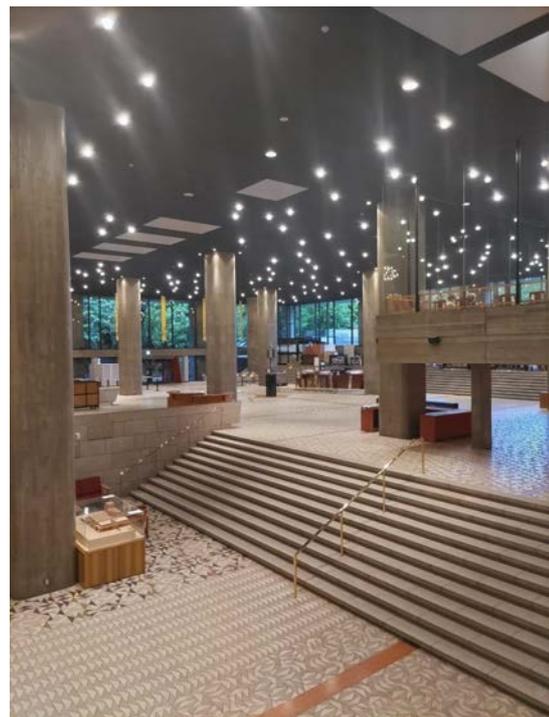
一方、長女は部活ばかりで、どこかに行くことはなくなっています。先日めずらしく後輩と一緒に講師のサクソコンサートに行きました。私が引率を買って出たのは、東京文化会館が会場だったから。私一人、盛り上がって「見て!あの天井!」と言ったものの、娘たちの反応はどうだったか???小ホールは、音も空間もすばらしく、心地よい時間でした。

最近読んだ本は、「動物たちは何をしゃべっているのか」山極寿一・鈴木俊貴。山崎ナオコーラのエッセイ。映画「アナログ」のDVDも最近観ました。

このくらい今現在は、仕事以外のことで動いたり考えたりできる、比較のおだやかで、この状態が続くことを願っています。

「ほぼ仕事」の日々が、長く長く続く時期もあり、困難なことも重なって、それは本当に厳しく、思い出すのも辛いくらいです。一つひとつの仕事が辛いのではなく、困難と心配事が常につきまとうような状態で、24時間「ほぼ仕事」。娘たちや家のことは本当にちょっとになってしまい、自分でも驚く、、それを繰り返しながら、やっています。

もっとうまく、よい状態を維持したいものです。音楽やりたい、川の音が聞こえ山脈に囲まれて暮らしたい、もちろんいい仕事をしたい。妄想しすぎないように気をつけて、そう、新建でも視野を広げ、豊かに仕事し、暮らす術を学んでいきたいです



## 三陸鉄道ぶらり一人旅 (3)

柳澤泰博

朝になりホテルから宮古の街を展望すると、静かな町が広がっていました。

宮古の津波の被害は、宮古港方面から町の中心を流れる閉伊川(へいがわ)をさかのぼりその河川沿いに被害が出ています。川に近くある三陸鉄道の宮古駅や宮古市役所も津波が押し寄せていますが、当然？当時の影響は見られませんでした。駅前の市役所が新しく建替えられていました。



ホテルから宮古の町を眺める



新しい宮古市役所と保健センターを  
駅から望む

さて最終日は宮古から三陸鉄道の終着久慈へ、そしてそこから JR 八戸線で八戸に向かいました。

まずは宮古 9 時 23 分発の三陸鉄道に乗り 1 時間半かけて終着久慈駅へ向かいます。

宮古からは線路は海岸からは離れて、ほどなくすると長いトンネルに入ります。そして田老駅に。田老は壊滅的な被害があったところで、駅の周りを見渡しても、新たに設置された巨大な防潮堤防ばかりが目立ってまわりは茫々としていました。

2020 年に開業した隣の新田老駅前には建物が建ち並び新たな街づくりが進行していました。

そしてしばらくすると、奇跡的に被害を免れた三陸鉄道の車両を模した水門の機械室棟が遠くに見えました。



田老駅の周りはすすきの原で茫々  
としていた



津波でも残った三陸鉄道の車両を模  
った水門の機械室棟が遠く見える



新田老駅に掲げられていた「三陸ジ  
オパークへようこそ！」の横断幕

メモ

ジオパークとは、地質・地形から地球の過去を知り、未来を考えて、活動する場所です。(日本ジオパークネットワーク HP より)

新田老駅を過ぎるとまた長いトンネルに入ります。三陸鉄道はなにしろトンネルが多い。そしてトンネルを抜けると突然山間や海岸線の絶景が広がる。



11時久慈駅に到着。久慈駅からはJR八戸線で今日の目的地八戸に向かいます。その乗り継ぎに2時間ほどあるので、昼食かたがた久慈の町を散策することにしました。駅前の自転車屋でレンタサイクルを借りて、とりあえず久慈港を目指して海鮮丼を食べようと出発！しかし目指してはみたものの、久慈駅から久慈漁港までは結構距離がある。町中から外れて延々と郊外地の幹線道路をひた走ることになり楽しくない。結局今回も途中で挫折して久慈駅まで舞い戻り、駅前のひなびた喫茶店のナポリタンで腹を満たすことになってしまった。

横断幕の「ようこそ不思議の国の北リアスへ」はチョット苦しいかな？

気を取り直して久慈から13時発の八戸線に乗る。八戸線はほどなく海岸線を走り、風光明媚な海岸沿いの景色が続きなかなか気持ちよい車窓からの眺めでした。



存分に景色を楽しんだのち八戸に到着。さすがに八戸は大きな町で都会という感じでした。

今回の旅は思い付きの三陸鉄道「乗り鉄旅」でしたので、乗り継ぎ駅と気仙沼と宮古に宿泊しただけであり途中下車もせず、ただただ列車の二泊三日の旅でした。三陸鉄道はイメージ的には海岸線をゆっくりと走る鉄道旅を期待していたのですが、思いのほか海岸線を通ることが少なく、トンネルが多い路線でした。

三陸鉄道をそれなりに楽しんだのですが、前半のJR仙石線と気仙沼線のBRTバス路線ののんびり感や後半のJR八戸線の景色は充分に楽しいものでした。

今度はゆっくりと途中下車して地元名所などを巡る楽しい旅をしてみたいと思います。

# 鋸屋根に魅せられて

京都府京都市中京区② 写真家吉田敬子

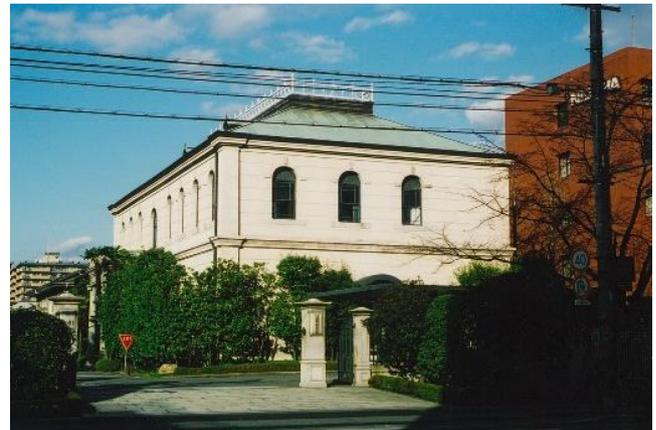
中京区壬生<sup>みぶ</sup>エリアで歴史ある鋸屋根に出会い、四条通から七本松通を二条駅方面に歩くと、煉瓦造の建物が見えました。「これは、もしかして？」と記憶が甦りました。JR山陰本線（嵯峨野線）の丹波口から二条駅に向かって乗車すると、車窓から広い敷地に煉瓦造の建物と鋸屋根が数秒間ですが見える場所があります。いつか下車して訪ねようと思っていた、あの場所でした。正門に「日本写真印刷株式会社」とあり、その先に見えたのは「あの煉瓦造鋸屋根」です。「わぁ～あれだ！」と、思わず叫んでいました。鋸屋根は目の前にあります。門も開いていますが守衛さんはみあたらず、私は「お疲れ様です。」などと言いながら鋸屋根に接近しました。迫力ある鋸屋根です。その内部からフォークリフトに乗り出てきた人に声をかけました。「工場の鋸屋根を撮影させて下さい。」すると「え～撮影？ここは倉庫だよ。本社で聞きなさい。う～ん、外側だけならいいか、危ないから早くね。」と苦笑いでした。「はい。」と一礼し、本社を訪ね撮影許可を貰う時間も無く、急いで撮影して失礼しました。残念ながら工場についての聞き取りはできませんでした。広い敷地内には他にも鋸屋根がありました。明治期の煉瓦造建築に詳しい友人に、写真を送ると資料が届きました。「煉瓦造鋸屋根は旧京都綿ネル（明治31～38年）の工場群で、現在はNISSHA株式会社（旧日本写真印刷）が使用。本館はニッシャ印刷文化振興財団の管理で「印刷歴史館」になっている。」

旧京都綿ネル株式会社 1898年（明治31）竣工：煉瓦造9連鋸屋根 2002年撮影



明治期の京都では、近代化を目指していくつかの紡績工場がつくられ、1898年（明治31）「京都綿ネル株式会社」の煉瓦造工場群が操業した。その後いくつかの企業の手に渡り1948年（昭和23）に「日本写真印刷株式会社」が土地と建物を購入した。京都綿ネルの工場群は改築改修を重ねながら、倉庫や生産工場として使用してきたが、工場群の老朽化が進み解体工事と再開発計画が始動した。再開発にあたり近代建築史の観点から価値があり記録を残すべきと、調査を実施した。工場群のレンガには大阪窯業が関わり、鉄製の梁にはLONDONの刻印があった。京都綿ネルの工場群は京都紡績産業の底力を結集したものであることがわかった。1906年（明治39）建築の京都綿ネル本社事務所は、2008年（平成20）保存改修し、翌年「NISSHA印刷歴史館」を開設した。2011年文化庁から国・登録有形文化財の登録認定を受けた。2017年「NISSHA株式会社」に社名変更した。

【写真説明】上左右・煉瓦造9連鋸屋根工場 1898年（明治31）竣工 下左右・NISSHA本館（旧京都綿ネル本社事務所）1906年（明治39）建築 下右・技術棟（旧第二発電所）1910年（明治43） 2002年撮影



## ベトナム少数民族・山岳民族(1)

ベトナムといえば、「現地でおいしいベトナムコーヒーがお手頃価格で楽しめる」・「日本人の口にも合う美味しいグルメ」・「可愛い雑貨」など、とても楽しみが多い国です。

そんなベトナムですが、「数多くの少数民族が集った多民族国家」だということはあまり知られていません。今回の記事では、多民族国家であるベトナムの意外な一面にスポットライトを当てて、そのお国柄をご紹介します。

出典:2020.4.20TnkJapan(旅行会社)

定義上は「有力な民族による軍事力をもって、他の民族が屈服させられているわけではない」といった厳密な要件があります。多民族国家の具体例としては、有名な国では、中国、ロシア、アメリカ、インド、スイス、南アフリカも多民族国家です

「代表的な少数民族は？」というところから話は始まります。ベトナムの代表的な少数民族は、**キン族**といわれています。キン族のもともとのルーツは、中国にあるとされています。

キン族が現在のベトナムの人口に占める割合においては、実に8割以上を占めるとも言われています。ベトナム人という呼称は一般的にキン族に該当します。

ベトナムの市街地において、少数民族や多民族国家を感じることは特にありません。都市部では、少数民族の人も都市に馴染んで生活しているため、キン族と見分けは付きません。

しかし、ハノイでは美しい刺繍などを売っている**サパ**や**ハザン省**などの山岳地帯の少数民族の人々を目にすることがあります。

北部山岳地帯の少数民族は普段、自分たちのなわばりの中で生活しているので、ベトナム語もあまり話せません。しかし**英語が堪能な人も多い**です。ベトナム国民が保持している**ID(国民証)にもきちんと民族欄の記載箇所がある**のは、多民族国家でもベトナムならではの言えるのではないのでしょうか。

それではベトナムの民族をご紹介します。しかし、日本語資料が少なく、ご紹介できない少数民族もあります。54もの少数民族が暮らしているので、すべてというわけにはいきません。

少数民族を詳しく知りたい方は、ハノイの「民族学博物館」がおすすめです。世界の博物館50選にも選ばれたことがある有名な博物館です。日本語の展示は無いので、ぜひ通訳やご友人のベトナム人と訪れてみてください。

**ベトナム民族学博物館** Bảo tàng Dân tộc học Việt Nam

住所: Nguyễn Văn Huyền, Quan Hoa, Cầu Giấy, Hà Nội 100000

営業時間: 8時30分～17時30分

### キン族 (Kinh / 京) 86.2% ⇒

ベトナムにおける主要民族で、一般的に「**ベトナム人**」と呼ばれている民族です。なお、キン族はベトナムのみならず中国、ラオス、カンボジア、タイでも少数民族として暮らしています。紀元前、東南アジア最古の青銅器文化「**ドンソン文化**」を発展させ、小規模な国家群を形成していました。これが古越人とよばれ現在のキン族の先祖です。

アジアニュースNo.18  
(ベトナム中心) TN



中国の「秦」成立後、千年以上中国の支配を受け続けたため、漢字を使用するなど中国の文化を受け入れていきました。しかし、歴代の中国王朝が弱まるたびに反乱を起こし、一定の独立性を保ってきました。10世紀ごろ、ようやくキン族最初の王朝とされる呉朝が現在のハノイ周辺に成立します。その後、周辺の少数民族や南部に形成されていた「**チャンパ王国**」を南進しながら従え、領土を増やしていきました。

そして17世紀にようやく現在のベトナム領土を確率するに至りました。しかし、その後すぐに19世紀からフランスによる植民地支配、日本軍の進駐を経て北と南の2つの国に分断されてしまいます。その後、アメリカが介入したベトナム戦争を経て、ようやく1975年に南北統一を果たします。

これらの歴史を踏まえて、ベトナム(キン族)の歴史は**常に戦いの歴史**であったとされています。

### タイ族 (Tày / 齊) 1.9% ⇒

人口は150万ほどでキン族について多い民族となっています。主に中国やラオスとの国境の山岳地帯に住んでおり、中国、タイ、ラオスなどで広く分布している**山岳少数民族**です。

タイ・カダイ語族系ですが次にご紹介するタイ族とは、異なる文化、風習を多く持っているため明確に区別されています。

### タイ族 (Thái / 泰) 1.7% ⇒

主に現在のタイ王国を形成している民族です。**タイ・カダイ語**を使用します。起源は諸説ありますが、中国南部にルーツを持つ説が有力とされています。

5-6世紀ごろに漢民族の進出に追われ、ベトナムを經由して西南方向に分布していきます。その過程でベトナムにも一定数が残ったとされています。

### ムオン族 (Mường / ) 1.5% ⇒

人口は100万人ほどで、少数民族の中で3番目に多い民族です。北中部の山岳地帯、とくにホアビン省とタインホア省に多く分布しています。

同じく山岳部に住んでいたタイ族との文化交流が多く、かつては強力な封建的社会を形成していました。ツボから飲む「カン酒」が有名です。

### クメール族 (Khơ Me Crộm, Cao Miên / 高棉) 1.4%

カンボジアを中心とするクメール文化を持つ民族です。南部メコンデルタエリアに住んでいます。チャウドックなどはクメール族の集落がいくつも残っています。

褐色の肌、大きな瞳が特徴的で、キン族とは顔つきが大きく異なります。アプサラダンスなどクメール文化も継承されており、後述するチャム族とは文化的な接点も多いです。



住む人・使う人の立場で、  
住まいづくり、まちづくりを  
すすめています。



共同建替「アリスア鳩ヶ谷」

〒124-0001  
東京都葛飾区小菅4-22-15  
TEL : 03-3601-6841  
FAX : 03-3601-6944  
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp  
<http://www.zo-3.info>

株式会社 **象地域設計**

**住**み続けられる



株式会社  
**まちづくり研究所**

〒150-0013  
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503  
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

#### 新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

WHY?

え？

**広告主募集中です!**

# 新協建設工業株式会社

**平和であればこそ建築はよろこび**

本社 台東区台東2-25-10  
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3  
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10  
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13  
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11  
石川支店 金沢市法光寺町207-4  
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450  
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472  
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380  
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581  
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874  
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570  
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728